

「ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクール参加報告書」

京都大学総合人間学部3年 齋藤航

今回のプログラムでは、ベトナムの言語や文化等を学び、また現地の日本語及び日本について学んでいる学生との交流を通じて、自国について再考する貴重な機会を得ることができました。

まず、第二次世界大戦期の日本とベトナムの関係をテーマとした国際シンポジウムへの参加や、ベトナムの文化等についての講義を通して、今まで知らなかったベトナムの新たな側面を学び、よりベトナムという国を身近に感じることができました。

そして、日本語や日本文化についての講義に参加させていただいたことも非常に有意義なものでした。このプログラムに参加する前に、日本語を学習する際にどのような点が難しいのかを知りたいと思っていたため、この点について現地の学生に聞いてみると、漢字、文法、敬語が特に挙げられました。しかし、このような難しさがあるにも関わらず、積極的に日本語を使おうとしていた学生を見て、見習わなければならないと思いました。これまで日本語を「外国語」として特に意識したことがなかったため、新鮮な経験だったように思います。

また、私のグループでは、このプログラムに参加した京大の学生10人とハノイ国家大学（外国語大学）の学生17人にお金と幸福をどのように見ているのかを調べるため、アンケートをとり発表したのですが、その結果も印象的でした。ベトナムの学生は、国が発展途上にあるためかお金の優先順位が高く、そして、日本人学生が友人との時間に幸せを感じるのに対し、ベトナムの学生は家族との生活に強く幸せを感じている人が多いという結果が出たのです。実際にアンケートをとることで両国の学生の金銭観や幸福感の違いが明らかとなり、大変興味深いものでした。そして、金銭観や幸福感は国の状態や文化によって大きな影響を受けるのだろうと改めて感じました。

二週間という短い期間でしたが、非常に中身の濃い経験をすることができました。現地の学生との交流は特に楽しく、私にとって大きな財産になりました。交流を通して、ベトナムの人々の生活を垣間見ることができ、とても興味深かったと思います。

ただ一点反省点を挙げるとすれば、ベトナム語を使った交流があまりできませんでした。現地の言葉を使ってこそ経験できることもあると思うので、今後、ベトナム語を更に勉強し、再びベトナムを訪れたいと思います。

このプログラムを通して、更に多くの異文化に触れたいという気持ちが強くなると同時に、日本について学ぶ必要性を改めて感じました。このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。